

科目名	経済学Ⅱ	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。	10	25	25	10							70
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		15	15								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答と解説を、Google Classroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済学入門 第2版 (Next教科書シリーズ)	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・経済主体と経済循環	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	国内総生産(1)		・国民経済計算 ・国内総生産の定義 ・国内総生産の計算	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民経済計算と国内総生産について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「付加価値」と「国内総生産」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
3	国内総生産(2)		・経済成長と経済成長率 ・三面等価の原則	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、経済成長率の計算方法と三面等価の原則について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「経済成長率」と「三面等価の原則」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
4	物価(1)		・名目と実質 ・物価水準の指標	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名目GDPと実質GDPの違いと物価水準の指標について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「名目GDP」と「実質GDP」、「GDPデフレーター」、「消費者物価指数」、「企業物価指数」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
5	物価(2)		・インフレーションとデフレーション ・インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ ・インフレーションの経済効果	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、インフレーションとデフレーションについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「インフレーション」と「デフレーション」、「インフレ・ギャップ」、「デフレ・ギャップ」、「インフレーションの経済効果」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
6	失業		・失業の形態 ・失業の計算	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、失業の形態と失業率の計算方法について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「失業の形態」と「完全失業率」、「有効求人倍率」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	均衡所得の決定(1)		・有効需要の原理 ・消費、投資と乗数効果の関係(1) 総需要とケインズ型消費関数	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、有効需要の原理と、ケインズ型消費関数と可処分所得の関係について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「ケインズ型消費関数」と「限界消費性向」を理解するように努力すること。		
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		
8	均衡所得の決定(2)		・消費、投資と乗数効果の関係(2) 乗数効果 ・政府支出拡大と減税の効果(1)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、乗数効果（メカニズム）および均衡国民所得について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「乗数」と「均衡国民所得」を理解するように努力すること。		
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		
9	均衡所得の決定(3)		・政府支出拡大と減税の効果(2)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府支出拡大および減税が均衡国民所得に与える効果について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「政府支出拡大の効果」と「減税の効果」を理解するように努力すること。		
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		
10	均衡所得の決定(4)		・政府支出拡大と減税の効果(3)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府支出拡大の効果について45度線分析による図の説明ができる。		
	事前学修	前回までの「均衡所得の決定(1)～(3)」の内容をしっかりと理解する。特に、「政府支出拡大の効果」と「減税の効果」を計算できるようになること。		
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		
11	金融システム(1)		・金融とは ・貨幣とは	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金融システムと金融の役割、貨幣の機能と範囲について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「金融の役割」と「貨幣の機能」を理解するように努力すること。		
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		
12	金融システム(2)		・金利とは ・中央銀行の役割	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金利と中央銀行の役割について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「金利と債券価格の関係」と「中央銀行の役割」を理解するように努力すること。		
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	国際経済学の基礎		・ 国際貿易の基礎理論	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自由貿易均衡を通して貿易の経済効果について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「自由貿易の利益」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
14	試験と振り返り		ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学と国際経済学の入門的な内容を総合的に説明できる。		
	事前学修	教科書の6章から11章までと14章1節を読み直して、その内容を理解する。		120分
	事後学修	試験の内容を復習する。		120分
15	試験の解説と総括		ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学と国際経済学の入門的な内容を総合的に説明できる。		
	事前学修	前回の試験問題を中心に、教科書の6章から10章までと14章1節を読み直して、その内容を理解する。		120分
	事後学修	半年間の授業内容を総復習する。		120分